

平成19年度胎内型ツーリズム推進協議会301人会事業計画書(案)

- 1 胎内型ツーリズム推進協議会301人会の設立と第2回301人会の開催
 - (1) 設立時期 6月10日(日)
 - (2) 協議会の設立と講演会の開催
 - 基調講演「胎内型ツーリズムの展開による地域活性化」
 - 講師 東洋大学教授 青木 辰司
 - (3) 第2回301人会の開催 11月頃
 - ア 胎内型ツーリズムのビジョンとアクションプランの提示・検討
 - イ グリーン・ツーリズムの実践事例研修 県外：岩手県遠野市・長野県飯山市など
- 2 推進チームの編成と当面活動内容
 - (1) 胎内型ツーリズム総合企画推進チーム
 - 胎内型ツーリズムを総合的に推進し、推進チームの企画等の調整を図る。
 - ア 胎内型ツーリズムのビジョンづくりとアクションプランづくり(展開方法)
 - イ 市営観光交流施設の総合的な戦略商品づくり
 - ウ 胎内型ワーキングホリデー(援農隊)の企画と推進
 - 平成19年度 夏・秋・冬の3回実施
 - (2泊3日、1泊は農村民泊、1泊は観光交流施設)
 - エ 各種会議、研修会等の誘致
 - (ア) 全国山野草・つみ草料理まちおこしサミットの開催(H19年10月8・9日)
 - (イ) 平成20年度第6回新潟県グリーン・ツーリズムサミットの誘致
 - (全国の交流施設担当者、G・T実践者に案内、参加予定約400人)
 - (ウ) 東北ツーリズム大学胎内分校の誘致(H20年3月中旬開催予定)
 - 市内・県内・東北のG・T実践者、参加予定約100人
 - (エ) 全国米パン・米菓子サミット開催の検討(H19年12月上旬開催予定)
 - (オ) 胎内型ツーリズム推進協議会301人会員をはじめ、市を挙げての営業展開例 市職員は、研修会等に参加する際、冊子等を持参しPR活動を行う
 - オ 胎内型ツーリズムファンクラブの設立検討
 - カ 胎内市観光交流施設の共通利用券(遊学券)の発行：共通施設利用券で収益向上
 - キ 大学、私立学校等との施設利用契約(宿泊契約施設)の検討
 - ク 報道機関、雑誌社等への情報提供と取材協力、ホームページの充実と総合的なパンフレットの作成等
 - (2) 大人&ファミリー誘致推進チーム
 - 生活者のニーズや胎内市の豊富な地域資源、多様な交流施設を最大限に活用した誘客モデルプランを作成する。
 - 日本では長期休暇法(バカンス法)が制定されておらず、平日の誘客が課題であり、市内、新潟市、下越地域、県内をターゲットに、日帰り・宿泊プランを作成し、ローラー作戦的な営業を展開する。

県外の誘客については、魅力的な商品づくりと情報発信による誘客、交流のある市町村等、大学等のスポーツ・サークル合宿、体験学習旅行の家族、生活協同組合との交流拡大等ターゲットをしばった営業を展開する。

ア 旅行者ニーズにあった商品開発

- (ア) 小グループ（女性グループ・ファミリー等）やサークル（一般・大学等）向けプラン

例：天然プラネタリウムと口径60センチ反射望遠鏡による星空観察
＋温泉宿泊＋体験（ソーセージづくり、古代体験、自然観察会、飼育体験等）

- (イ) J A、農業委員会、土地改良区、農業共済、農家組合等向けプラン

- (ウ) 官公庁、企業等向けプラン

例：会議プランや関係団体サークル等向けプラン（イ及びウ）

- (エ) 市民向けプラン（趣味サークル・高齢者・ファミリー等）

観光交流施設が趣味サークル活動や保養・健康づくり等の場となるプラン

例：お茶会・健康料理教室・音楽発表会・温泉入浴・誕生会など

- (オ) 地域食材を活用した食のイベント開催

胎内牛、黒豚、地ビール、ワイン、米粉パン、ネギなど特産野菜、山菜、きのこなどを活用したイベントの開催や宿泊・日帰りプランの提供

- (カ) イベントの発展・持続・提携の検討

胎内星まつり、中秋の名月「板額の宴」、イバラトミヨ・水芭蕉の会、あじさいロードほたる鑑賞会、胎内探鳥会、胎内サラダ記念日、燃水祭など

- (キ) 旅行社等と連携した商品づくり（秋・冬・春の商品づくり）

イ ホテルのランクに応じた商品開発と価格設定

上記プランをホテルのランクに応じた商品と価格の設定

例：胎内グランドホテル

日帰り中心、高齢者等が週1回楽しめるプランづくり
地区別に曜日を決めて老人クラブを送迎する等

例：ロイヤル胎内パークホテル

幅広いターゲットに向けた宿泊プラン

胎内パークホテル・ニュー胎内パークホテルとのランク付け

ウ 胎内高原ビール園の魅力アップ

季節を感じさせるメニューの提供（毎月1回変更）

サラダバーによる地場産新鮮野菜の使用・普及

郷土料理教室や地域食材を組み合わせ、相乗効果のある料理教室の開催

音楽演奏会や食のイベント、全国地ビールまつり、全国鍋物選手権等の開催など

(3) 体験学習旅行誘致推進チーム

目の輝いた、やる気のある「たいないっこ」の育成事業の検討

花と緑と食彩の“まち”胎内市のほんもの感動体験（仮称）

～山も里も川も海も満天の星空もまるごと体験～

ア 胎内型ツーリズムにおける体験学習の特徴は、地域と学校、学校間の連携を重視し、子どもたちの自然・農業・農村生活体験を推進

- (ア) 目の輝いた、やる気のある子どもを育てる→ゆとりの中で生きる力を育み、

学力向上にも繋がる。

- (イ) 愛、優しさ、思いやり、信頼、感動、感謝の気持ちを育てる→人間愛、地域愛を育み自分や自分の住む地域に自信と誇りが持てるようになる。
 - (ウ) 人とのつながり、地域とのつながり、食と農のつながりなどの大切さを知る→自ら学び考える力を育てる。
 - (エ) 農村生活体験で、あいさつが出来、食事の準備と後片付けができるようになる。(生活体験ですので、食事づくり等も子供たちに体験してもらう)
→自分の家族とのコミュニケーションができるようになる。
 - (オ) 体験学習の推進にあたっては、地域と学校、学校間の連携を図る。
→小学校では(6年生を対象)市内学校が合同で実施することを検討する
→学校間の連携(事前学習)や子供たちの友達づくりができるようになる。
事例：千葉市(小学校23校)では、学校を3~4校にグループ分けし、
合同で体験学習を長野県で実施している。
 - (カ) 子供たちを受け入れて、農業・農村が元気になる
→地域、受入家族のコミュニケーションが高まり、女性、高齢者等の活躍の場ができる。
 - (キ) 政府教育再生会議では、小学校では集団宿泊体験、自然体験・農林漁業体験活動を1週間実施、中学校では、職場体験活動を1週間実施することを求めている。
胎内市では、未来の担う子供たちの体験学習を平成20年度から取組む方向で検討を進め、全国のモデルケースになるような取組を目指す。
- (注) 都会の子供たちは、自然、農林漁業体験、農村生活体験、田舎の子供たちはテレビに熱中などと言われないように、地元の子供たちの体験学習を重視する必要がある。
- イ 市内の学校を対象とした農村生活体験学習プランの策定
学校の教育目標を理解し、学校や受入地域の意見が反映されたプランづくり
- (ア) 小学校6年生(又は5年生)の農村生活体験学習の推進
市営宿泊施設(集団宿泊体験1泊)+農村民泊(ホームステイ1泊)
農村民泊は農家等に3~4人でホームステイ
市内全校が一斉に実施し、子供たちの仲間づくりや学校間の交流を図る
*市内の学校教師を対象に、胎内型ツーリズム(体験学習)のモニターを実施
 - (イ) 中学校2年生(又は1年生)の農村生活体験学習の推進
市営宿泊施設(集団宿泊体験1泊)+農村民泊(ホームステイ1泊)
農村民泊は農家等に3~4人でホームステイ
職場体験活動(日帰り)と一体的に推進
 - (ウ) 小・中学校全校生徒の体験学習の推進
市営観光交流施設による体験学習、キャンプ、星空観察、ソーセージづくり、古代体験、自然観察会、酪農体験等を選択学習
例 中学校3年生によるぶどうの収穫とワインづくり体験
→成人式の記念に1本贈呈又は同級会で乾杯

※当面の目標

平成19年度 市内学校の体験学習 小・中学校の全校生徒1回(学校と調整)
農村民泊受入農家の掘り起しと研修

平成20年度 市内学校の農村生活体験学習
小学校6年生(2泊3日) 中学2年生(2泊3日) など

ウ 首都圏及び県内の学習旅行モデルプランの策定

首都圏等及び県内の学校の学習旅行を誘致、受け入れするとともに、将来の胎内市のファンづくり、生徒の家族等の誘客を図る。

(ア) 2泊3日コース（首都圏学校訪問、旅行社と連携）

市営宿泊施設（1泊）＋農村民泊（1泊）

市営宿泊施設（2泊）＋農林漁業体験等

市営野外施設（1泊）＋農村民泊又は市営宿泊施設（1泊）

* 旅行社営業担当者を対象に体験学習旅行のモニターを開催

平成19年6月14日～15日：(株)農協観光営業部グリーン・ツーリズム事業課、
教育旅行課の担当課長が胎内市を訪問

(イ) 1泊2日コース（県内学校訪問、校長会等に出席）

市営宿泊施設（1泊）又は農村民泊（1泊）

(ウ) 日帰りコース（新潟市、下越地域の学校訪問）

市営観光交流施設による体験学習

ソーセージづくり、そば打ち体験、星空観察、酪農体験等から選択学習

* 新潟市、下越地域の学校教師を対象に胎内型ツーリズム（体験学習）のモニターを実施

※当面の目標

平成20年度 首都圏の学習旅行誘客 2校（250人）

県内の学習旅行誘客 3校（300人）

学習旅行生徒のファミリーの誘客20組（100人）

(エ) 韓国、中国、台湾等の学習旅行受入に向けたモデルプランの作成
旅行ニーズがある韓国、中国、台湾等の学習旅行の将来的受入
（一般のスキー温泉客も受入）

(オ) 農村民泊の受入農家等の掘り起しと支援

「農村民泊」・・・農家・非農家を問わず、誰でも無理のない胎内型ツーリズムへの
参入を促し、その家の状況に応じて、無理のない受入を行っていただきたいこと
から農家民泊ではなく、「農村民泊」としています。（漁村も含みます。）

(4) 農産物のオンリーワンブランドづくり推進チーム

胎内型ツーリズムの推進により、交流人口の大幅な拡大で農産物の顧客づくりを支援する。

ア 生活協同組合等との交流事業の推進

体験交流から生活者の参画による農業生産への展開

（共同開発米の生産、バイオマスを活用した有機農産物の生産拡大等）

イ 魅力的な農産物直売所づくりの支援（安全・安心・少量多品目の農産物づくり）

ウ 農畜産物の加工販売支援（農産物加工研究グループの育成）

エ 地産地消の推進

学校給食との連携、市内のホテル、レストラン、飲食店等と市営交流施設で地産地消認証店制度の検討（米・野菜、肉、魚、醤油、味噌等の地域食材利用60%以上の店を認証）

(5) 集落ツーリズム推進支援チーム

中山間地域等直接支払協定集落を中心に、元気で、美しい集落づくりを支援する。
～夢と目標を持った人々の笑顔、自然環境が守られ、庭や道路に花が咲き乱れ、
農用地が美しく管理される集落を目指す～

ア 集落の各層の参加によるコミュニティづくりの推進

(ア) ビジョンづくりとアクションプランづくり

集落の夢・目標を皆で考え、短・中・長期の実践プランを策定、目標達成に向けて集落全員で努力する。

(イ) 重点集落を設定し、市内全域への波及効果を目指す。

イ アグリビジネス、交流ビジネスの推進支援

(ア) 胎内型ツーリズムの推進

アグリビジネス（農産物の直売等）や体験交流ビジネス（農村民泊、山菜採り、棚田オーナー、田植え・稲刈り等の農作業体験等）の推進

(イ) 農村民泊やワーキングホリデーの受入農家の掘り起しと支援

ウ 伝統行事の継承と復活支援（盆おどり、神楽舞、さいの神など）

→伝統行事を活用した交流で、元気な集落づくりや特産品の顧客づくりを目指す。

(6) ビジネス人材育成支援チーム

胎内型ツーリズムの核となる人材を育成支援する。

ア 女性・高齢者パワー等を活かしたアグリビジネス（農産物直売所や農産加工等）の起業支援

(ア) 魅力ある農産物直売所を目指した研修会開催（安心・安全・少量多品目の生産体制の支援）

(イ) 農産物加工研究グループの育成と支援

イ 体験交流ビジネス（農村民泊・農林漁業体験等）における女性の役割は非常に大きいことから、胎内型ツーリズムの人材育成を推進する。

(ア) 胎内型ツーリズム推進研修会、体験学習旅行の受入研修会を開催する。

（子どもへの対応、体験の進め方、食事提供、安全対策等）

- ① 交流人口を増やし、地域循環型経済や地域活性化を目指す。
70万の人を呼ぶよりも、
「20万の人から3～4回訪れるようなリピーターづくり」がポイント。
- ② 通過型観光から滞在型・体験交流型ツーリズムへの転換。